

イボウミナ *Batillaria zonalis* (Bruguère)

【選定理由】

本種の属するウミナ科貝類は県内にホソウミナ *B. atramentaria* (Sowerby)、ウミナ *B. multiformis* (Lischke)、イボウミナの3種が生息し、ともに内湾の砂泥干潟の表面に生息している。東京湾や三浦半島ではウミナ、イボウミナに著しい減少傾向が認められる(千葉県, 2000; 葉山しおさい博物館, 2001)。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。また本種はウミナと比べても著しく生息地が少なく、近年個体数が減少している。現在、隣接する汐川干潟、紙田川河口域の2生息地が確認されているが、いずれも個体数は少なく、健全な個体群ではない。それ以外では生息も確認できず、死殻も稀である。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻長約 40 mm の高い塔型で殻は厚く、螺層にやや強い肋を持つ。殻口外唇が湾入する点で他の2種と区別できる。



田原市汐川河口, 2016年5月23日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内の生息場所は著しく減少したと考えられ、現在生息が確認されるのは汐川干潟(藤岡・木村, 2000)と紙田川河口域の2カ所にすぎない。汐川干潟では健全な個体群が確認されていたが、個体数の減少傾向が認められ、現在(2019年調査)では健全な個体群と言える状況ではない。近年死殻を確認できる場所も少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インド洋、太平洋、国内では北海道南部から南西諸島まで分布する(木村・福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したように泥干潟の表面に生息するが、ウミナ科3種の中では最も干潟の先端部(沖合の部分)に分布する。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。また、生息地が直接破壊されない場合でも生貝が見られなくなってしまった場所も多い。

【保全上の留意点】

上述したような泥干潟を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

千葉県(2000)では絶滅生物にランクされている。葉山しおさい博物館(2001)では相模湾の個体群が消滅にランクされている。

【引用文献】

藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の1998年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

木村昭一・福田 宏, 2012. イボウミナ, p. 31 in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック. p. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

(木村昭一)